

通巻 第71号
令和5年3月

佐倉市V連協だより

【発行】
佐倉市ボランティア連絡協議会
【連絡先】
佐倉市ボランティアセンター内
TEL:043-484-6198
<http://www.sakuravren.com/>
E-mail info@sakuravren.com



佐倉市ボランティア連絡協議会 会長 住吉 アキ子

今年の春先は桜の開花が早まるほど暖かく、皆様もお変わりなくお元気でお過ごしのことと思います。今年に入りコロナ感染者の減速傾向が見られマスクの着用も3月13日より個人の判断に委ねられました。そして2月11日、3年ぶりに「ボランティアのつどい」を対面で開催いたしました。参加された方々からはとても好評な感想をいただきました。

2月に発行した広報紙「はらっぱ」に令和4年度の活動報告を掲載しております。そして、令和5年度はコロナ感染症に気を付けながらも対面で行う活動を増やしていきたいと思っています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



令和4年度 後期活動報告

- 第12回 障がい者作品展「ふれあいギャラリー」
日時：令和4年10月28日(金)～30日(日)
場所：佐倉市立美術館
- ボランティア・市民活動フェスタ2022
＜中止＞
- 令和4年度 第2回運営委員会
日時：令和4年12月4日
場所：志津コミュニティセンター
- 第41回 ボランティアのつどい
日時：令和5年2月11日(土・祝)
場所：志津コミュニティセンター

令和5年度

第1回運営委員会（総会）のお知らせ

- (1) 日時：令和5年4月29日(土) 9時30分～
- (2) 場所：志津コミュニティセンター
- (3) 総会

＜協議事項＞

- 令和4年度活動報告・決算報告・会計監査報告
- 令和5年度活動計画(案)・予算(案)

＜グループワーク＞

テーマ：語ろう！ボランティアの良いところ、改善していきたいところ

※お知らせ

- ・令和5年度の登録申請書をご提出ください
- ・上記申請書と共に会費(1,000円)の納入をお願いします

令和4年度 福祉功労者表彰

おめでとう
ございます

【福祉活動功績者】

団体 花の散歩道
個人 寺田 純子さん

【会長表彰】

個人 伊藤 千津子さん
岡崎 好子さん



印旛都市ボランティア連絡協議会交流会がリモート会議で行われました

3月22日、5市2町(成・佐・四・八・富・酒・栄)16名の参加者の中「ボランティア活動の現状」「これからのボランティアについて」をテーマに活発な意見交換をしました。高齢化と後継者の問題や今後若い人たちをどう取り込んでいくかなど、印旛都市どのボランティア団体でも同じような悩みをかかえているという印象でした。

【参加者の声】

今回は八街V連主催、次回は酒々井V連主催の予定

- ・高齢化することがわかっていただけに対策を取ってこなかった。 ・ボランティアとして企業から参加した人が活躍している。
- ・災害ボランティアセンター(社協だけでは立ち上げられない)の立ち上げのための手伝いをしている。
- ・3/11 防災に関する講習会を行い自宅にある災害備蓄品を持ち寄り見せあった。
- ・こども食堂・地域食堂が増えており、若いお母さんたちが活躍している。
- ・傾聴講座を開催し50人集まったが、ボランティアグループ結成にはならなかった。
- ・グループに入ってまでボランティア活動をしようとは思わないと話す人が多かった。
- ・時代に即したボランティア活動が求められている。
- ・IT関係、Zoomの研修など学びたい。



第41回 ボランティアのつどい 豪雨！地震！その時、あなたはどう動く？

東日本大震災から12年。関東大震災からは100年となるこの時期に防災をテーマに講演会を開催いたしました。佐倉市役所危機管理課防災官の荒井博友氏をお招きし、近年の災害について【佐倉市の被災状況】を交え、今後必ず起こりうるであろう『その時』に、私たちは「どう動きどう対応すべきか」を学びました。災害は明日にも起こるかもしれません。今回の講演から学んだ一部をここにご紹介いたします。

1. 佐倉市の災害状況

(令和元年度の台風・大雨の被害状況)

	降水量	最大瞬間風速	最大雨量	被害期間	停電	倒木	道路破損	家屋被害			農業被害額	災害ごみ量
								全壊	半壊他	一部損壊		
台風15号	136mm	33.9m/s		38h	24千軒	416件	1件		20件	1088軒	61千万円	339トン
台風19号	156mm	31.1m/s		96h	19百軒	26件				25軒	4千万円	258トン
10/25大雨	248mm		54mm	24h				2件	6件	58軒		60トン

2. 自身の身を守るには【自助】 命を守るには1人1人が災害を自分事として捉え事前に準備を行う

- 『現状を知る』 → 地域の「ハザードマップ」を理解
- 『家族内での連絡方法の確立』 → 「171」活用を熟知
- 『事前に備える』 → 水・食料・トイレなど
- 『耐震化』 家に住み続けるために → 「耐震診断」 → 「耐震強化」

ハザードマップで確認
実際に起こりうる災害の危険度を
ハザードマップから知ることができます



家具の固定⇒

【佐倉市の耐震補助事業】

「木造建築物耐震診断補助事業」
「木造住宅補強改修工事補助事業」等耐震補助事業

いずれも事前申請 (詳しくは佐倉市役所にお問い合わせください)

3. 地域や身近にいる人たちと助け合う【共助】

- 『地域の防災訓練』
- 『地域の連絡網の作成』等

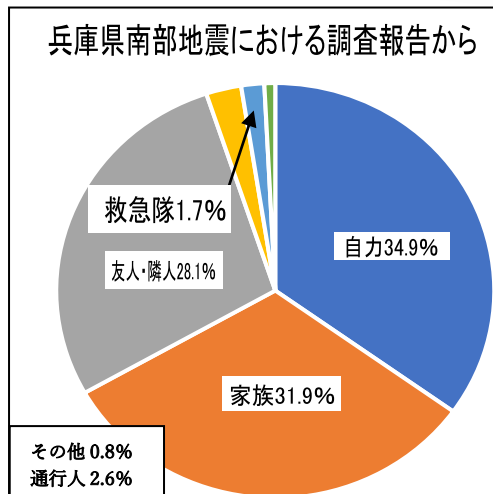
コミュニティ内での情報の伝達や隣近所の声掛けと寄り添いが命を繋ぐ力

4. 行政等による防災体制の整備や災害時の救助/支援【公助】

行政の力には限界があるからこそ自助・共助で備える

【佐倉市単独での消防力】(人口171,747人 世帯数78,763世帯)

- 消防士員・・・194人(市民885人に1名)
- 消防ポンプ車・・・16台(市民10,734人に1台)
- 高規格救急車・・・9台(市民19,083人に1台)



参加者の声を聞いてみました

- 佐倉市の被災状況がよくわかり参考になった。もっと危機感を持たないといけないと感じた。
- 自助・共助の大切さや避難所運営の必要性を再確認した。近隣との声掛けを日ごろから意識することが大切。
- 講演・グループワークともに大変学ぶことが多かった。「自助は最大の共助！」
- 防災意識を高めるためにも、今後も地域ごとにこのような勉強会があるとよいと思う。
- 知っているようで知らない事、勘違いしていたこと等がわかり有意義だった。
- 防災ハザードマップの重要性に気づいた。

(抜粋)

編集後記

この講演会に参加し「災害を他人事でもっと自分事としてとらえなければならぬ」と痛感しました。そして行政の力には限界があることを知り、身近なつながりで助け合うこと【共助】こそが、自分や大切な人の命を守ることでありと学びました。今春にはコロナも落ち着き、5類への移行となり少しずつ以前の生活が戻って来ることでしょう。このコロナ禍を皆で乗り切ったように、今後起こりうるであろう災害も地域のつながりの中で、正確な情報を共有しコロナ同様正しく怖がり備えたい。そして、互いに寄り添い思いやることで、これからの災害を必ず乗り越えることができると信じております。